Photo ふなばし

とくしゅう PART2

デイサービスの現場で ふれあいから笑顔が生まれます

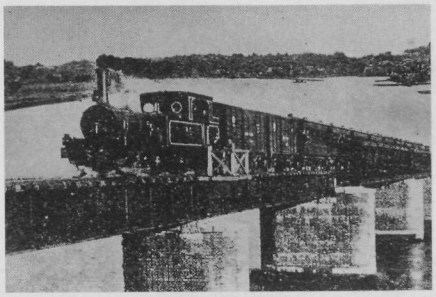
北老人デイサービスセンターで

MOVE

船橋市の表玄関 JR船橋駅南口の移り変わり

とくしゅう PART1

写真で見る船橋物語Ⅳ 《近代》



江戸川鉄橋を走る総武鉄道の汽車
（『千葉鉄道管理局史』より）

- 市政トピックス
- 街角ホットニュース
- サークル通信
- WE ARE IN FUNABASHI

まちなかの文化財／ふなばしの民話
市民ひとことインタビュー

vol. 83
広報ふなばし写真版
1月号（隔月第4月曜日発行）

船橋市の表玄関
MOVE JR船橋駅南口の移り変わり

現在のJR船橋駅が誕生したのは、明治27年のことです。その後、1世紀の間に、鉄道を中心とした交通網が発達し、この南口は、船橋の表玄関として発展してきました。

昭和38年ごろから、大丸ビルの建設など、駅前の建築物の高層化が始まり、42年には、現在の駅前広場が完成。45年に船橋駅も高架化されました。

そして、54万都市となった今、21世紀の船橋の表玄関にふさわしい、魅力あふれる駅前に発展させようと、再開発事業が進められています。平成14年の春には、地上14階、地下3階建ての再開発ビルが完成する予定です。

JR船橋駅南口再開発ビルの完成予想図

既存の建物の取り壊し作業が進む、現在のJR船橋駅南口の駅前（西武百貨店船橋店屋上から）

昭和40年9月。現在の駅前広場が完成しました

昭和35年9月。「船橋市」の文字が大きく浮かぶネオンのアーチがありました（栗原 稔さん撮影）

昭和30年8月。奥の白いビルは昭和産業で、現在の西武百貨店の場所にありました（手塚博禮さん撮影）

昭和26年10月の国鉄船橋駅前（手塚博禮さん撮影）

とくしゅう PART1

写真で見る船橋物語Ⅳ《近代》

船橋の歴史を紹介してきた「写真で見る船橋物語」は、今回が最終回となります。

船橋市内には10本もの鉄道が走っていますが、初めて鉄道が敷かれたのは明治27年のことでした。この開通により、宿場町としては一時さびれてしまいますが、やがて商業都市、衛星都市として生まれ変わり、首都圏有数の大都市へと発展する基礎が築かれました。

今号では、明治時代から船橋市が誕生した昭和初期までの、近代の歴史を紹介します。

明治時代

明治新政府と幕府軍の戦い（戊辰戦争）では、船橋もその戦場となり、船橋大神宮や中心街の大半が焼けてしまいました。

明治2年、明治政府は失業者対策として、旧幕府の放牧地の開墾を計画し、千葉県に13の村が作られました。開墾した順に地名に数字が付けられましたが、二和、三咲もその一つです。開墾生活は想像以上に厳しいもので、多くの人が開墾地を去りました。しかし、わずかに残った人や周辺から移住した人の手で農地が広げられました。

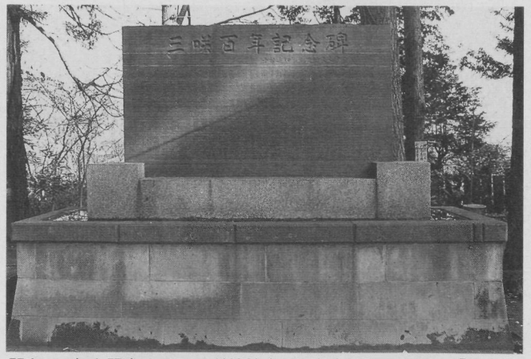
一方、放牧地の一部は演習場になりました。明治6年、明治天皇がご覧になる中、大規模な演習が行われ、天皇によって「習志野ノ原」（後に習志野原となる）と命名されました。この演習場は一望千里といわれ、船橋市、習志野市、八千代市にまたがる大規模なものでした。

明治5年、学制が発布されると、県下2番目の小学校として船橋学校（現・船橋小学校の前身）が開校しました。やがて学校の数も増え、就学率は飛躍的に向上しました。

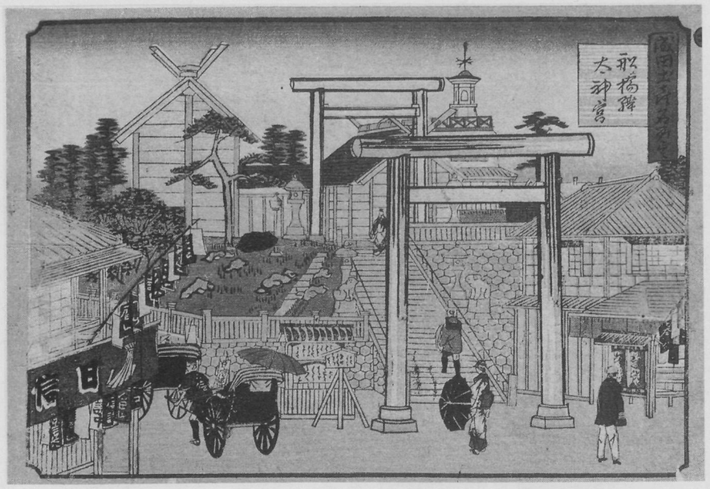
この時代の文化財には、明治13年に船橋大神宮内に造られた灯台、「灯明台」があります。

戊辰戦争のかわら版。慶応4年（1868年）、船橋周辺も戦場となり、中心街の大半が焼失しました

了源寺（宮本7）にある、戊辰戦争の幕府方脱走兵の墓



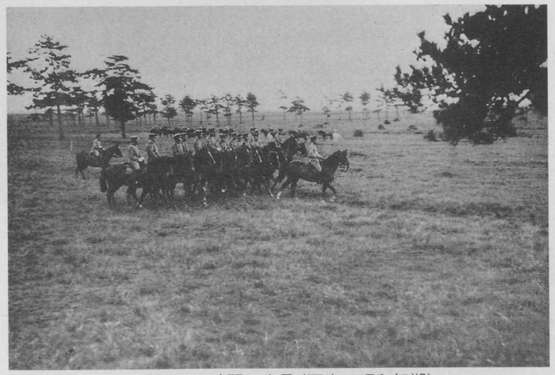
開墾100年を記念して、三咲神社（三咲9）内に建てられた「三咲百年記念碑」

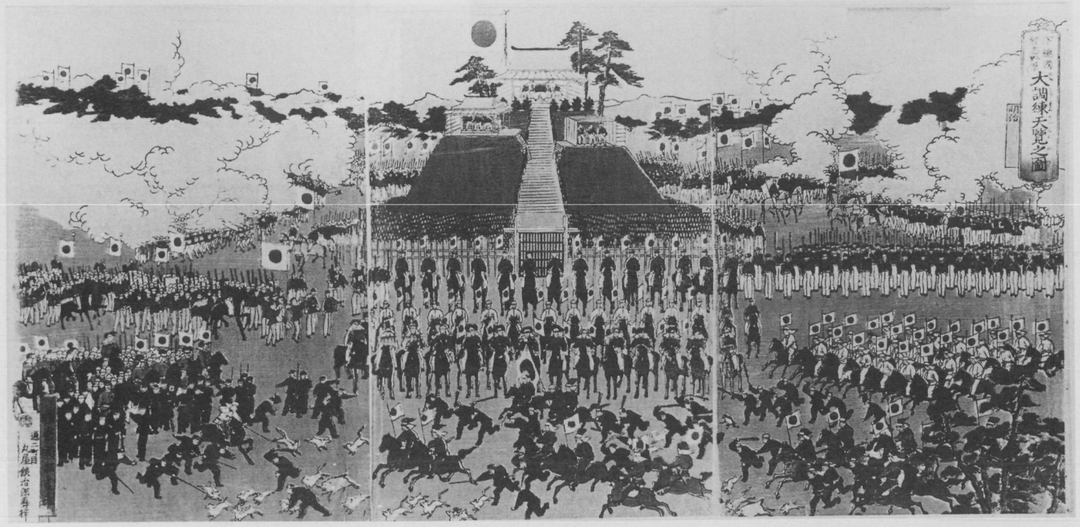

明治中期の船橋大神宮。灯明台の形が現在とは少し異なっています（西図書館蔵）

船橋大神宮の客殿は、五日市小学校（現・宮本小学校の前身）の校舎として使われていました

銅版画に描かれた、五日市小学校の様子

明治天皇の野営跡に建てられた「明治天皇駐蹕之處」の碑。現在は郷土資料館敷地内に移されています

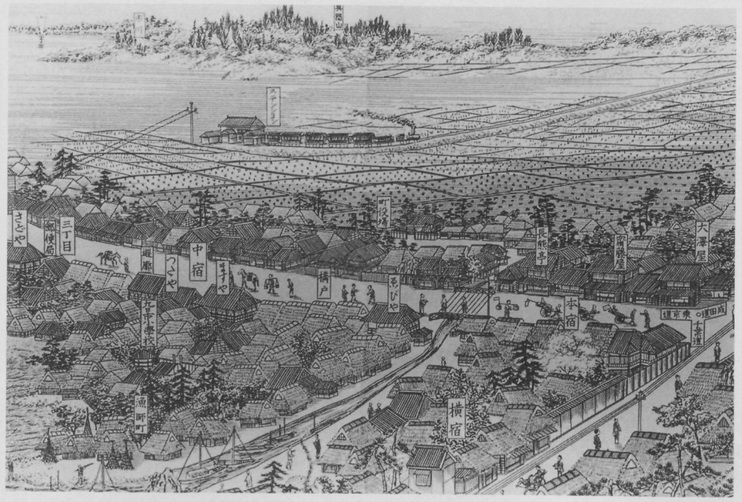

習志野原の演習の光景（写真は昭和初期）


『下総国習志野原大調練天覧之図』。明治6年4月29日、明治天皇が近衛隊の4個大隊を率いて演習を行い、ここを「習志野ノ原」と命名されました（西図書館蔵）

鉄道の歴史

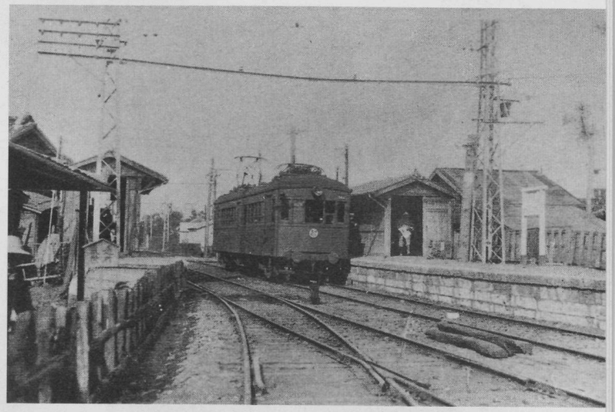
市内最初の鉄道は、明治27年7月に市川～佐倉駅間に開通した、民営の総武鉄道（現・JR総武線）です。同年12月には本所駅（現・錦糸町駅）まで、30年には銚子駅まで全線が開通しました。この開通により、船橋は宿場としての機能を失い、一時さびれてしまいました。その後、商業都市への転換や、習志野原演習場の拡充などもあり、交通の要衝として、まちは再び活気を取り戻しました。

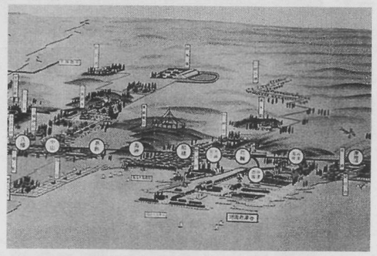
明治40年には総武鉄道の国有化と複線化がなされ、大正5年には京成電気軌道（現・京成電鉄）が船橋駅まで開通。大正12年には船橋～柏駅間に北総鉄道（現・東武鉄道野田線）も開通し、船橋は東京の衛星都市として、また、潮干狩りや海水浴などが楽しめる身近な行楽地として、大いににぎわうようになりました。



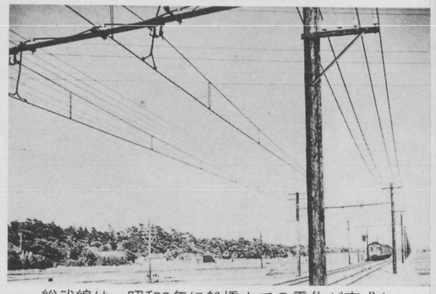
総武鉄道開通直後の通りと駅を描いた銅版画

完成されなかった幻の鉄道「船橋鉄道」の跡。船橋から金杉、大神保を通り柏に至る計画でしたが、大正7年に倒産し、線路敷の名残が「汽車道」として残っています（写真は高根町）


昭和初期ころの京成船橋駅

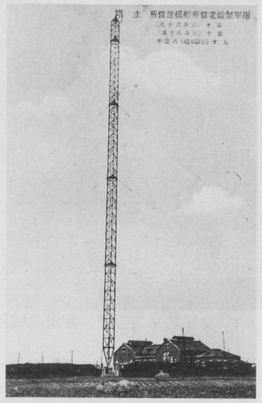

京成電気軌道の鉄道路線図

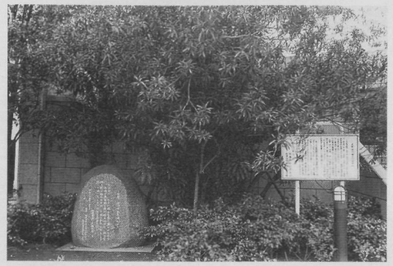
昭和12年ころの国鉄船橋駅


総武線は、昭和8年に船橋までの電化が完成しました。写真は昭和10年の現・西船橋駅から東方一帯

大正中期の三田浜塩田。船橋の塩業は、明治後期から大正にかけて、かなりの生産量をあげていましたが、昭和4年に政府の指示で廃止されました

大正末期の海老川橋と本町通り


大正4年に完成した行田無線塔の主塔。高さは約200メートルで、周囲の18本の副塔方向に向かって、銅線と鋼鉄線が張りめぐらされていました


太宰治は、昭和10年から1年3か月の間船橋で暮らしていました。太宰が植えた夾竹桃（きょうちくとう）は、現在、市民文化ホール前に移植されています

昭和12年4月1日、船橋市誕生を報道する新聞の号外。盛大な式典や仮装行列などが行われ、市民はお祭り気分で盛り上がりました

昭和3年ころの船橋の航空写真

大正時代～昭和初期

大正、昭和の歴史を語るとき忘れてはならないのが、大正4年に建設された行田の海軍無線塔です。その性能は東洋一と言われ、船橋が「日本の口（くち）」として初めて世界地図に載りました。太平洋戦争開戦を告げる「ニイタカヤマノボレ」が、ここから打電された話は有名です。

また、船橋には多くの文豪が訪れました。昭和初期には、川端康成が船橋を舞台とする小説を執筆したほか、太宰治が船橋に住み、数々の作品を生み出しました。

そして昭和12年、2町3村が合併し、県下4番目の市として船橋市が誕生しました。当時の面積は約40平方キロメートル、人口は約4万3千人でした。

『ふなばし物語』（改訂版）好評発売中

平成6年に発売した『ふなばし物語』を改訂、増刷しました。

これは、太古から現代までの船橋の歴史を、物語風にわかりやすく紹介したもので、市内の指定文化財も収録されています。

頒布場所　市役所3階広報課、二宮・芝山・高根台・二和・習志野台・豊富の各出張所

価　格　1,200円（税込み）

問合せ　広報課　☎36-2012

とくしゅう PART2

デイサービスの現場で ふれあいから笑顔が生まれます

クリスマス会で、寮母の柿沼さんが演じる手品に大喜び。レクリエーション行事では様々な趣向をこらしています（北）

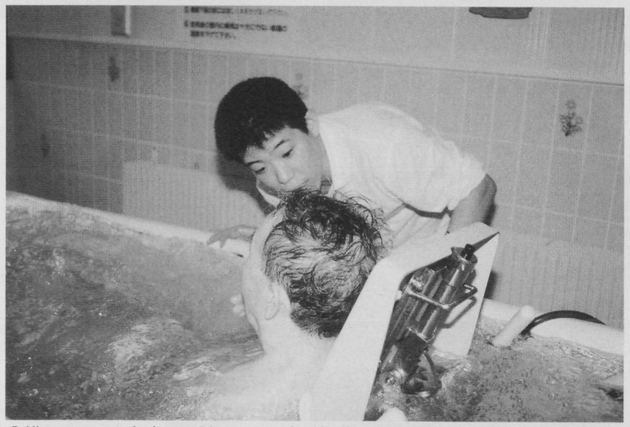
※（北）は北老人デイサービスセンター
（西）は西老人デイサービスセンター

食事の介助をする寮母の鈴木さん。栄養や噛（か）みやすさなどに配慮した食事は、とても好評です（北）

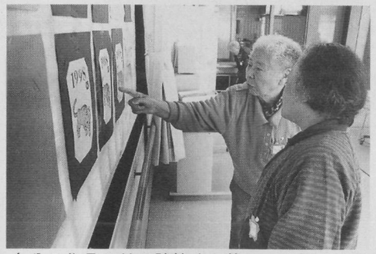
「喜んで食べてもらえると、とてもうれしいです」と話す寮母の鳥屋部さん（北）

施設では、職員とのふれあいで、いつも笑顔があふれています（北）

日本舞踊を熱心に見入るお年寄りの皆さん。様々なボランティアの慰問もあります（西）



入浴しているお年寄りに話しかける生活指導員の佐藤さん。入浴サービスでは、リフトを利用して寝たまま浴槽に入ることができます（西）



自分の作品の前で談笑する皆さん。施設に到着すると、健康チェックを受けた後、ぬり絵や折り紙などの軽い動作訓練を行います（西）

「いつまでも健康で過ごしたい」。それはだれもが願うことです。しかし、高齢化が進むにつれて、介助を必要とするお年寄りも増えています。そんな皆さんに「笑顔を取り戻してもらいたい」。「介助している家族の負担を少しでもやわらげてあげたい」。デイサービスの現場は、そんなやさしさと気概を持った人々で支えられています。

現在、船橋市内に、デイサービスセンターは7か所あります。デイサービスは、身体が弱く日常生活に支障があるお年寄りに、施設で日帰りの入浴・食事・生活指導などのサービスを提供するものです。

平成10年度には、三山小学校の余裕教室を利用した三山老人デイサービスセンター（仮称）を開設します。この施設は、小学校との併設なので、お年寄りと子どもたちの世代間交流が図られ、地域ぐるみの福祉の拠点となることが期待されています。

そのほか、5か所のデイサービスセンターが平成10年度中に開設される予定です。市では、デイサービスを含む高齢者の在宅福祉の充実をさらに進めていきます。

施設に到着したお年寄りの車椅子（いす）を押す所長の山崎さん。センターでは、車椅子のまま乗り降りができるリフトバスの送迎があります（北）

帰りのバスを見送る主任寮母の阿部さんは、「お年寄りの気持ちを理解することに努めています」と話してくれました（西）

新人寮母の日暮さんがマイクを向けると、お年寄りは照れていました。おやつの後、歌ったり、折り紙をしたりして過ごします（西）

デイサービスについての問い合わせ
高齢者福祉課　☎36-2352・2354

消防出初め式
一年の無事を願って

出初め式のフィナーレを飾る一斉放水

青空をバックに梯子の上で繰り広げられる伝統の妙技。1月7日、新春恒例の消防出初め式が船橋オートレース場駐車場で行われました。

当日は、消防局や消防団など総勢665人が参加。会場では、梯子乗りのほか、自衛消防隊による屋内消火栓操法や消防音楽隊のドリル演奏などが披露されました。そして最後に、今年一年災害がないことを願い、消防車両13台による一斉放水で幕を閉じました。

船橋市鳶職組合と若鳶会の皆さんによる梯子乗りの妙技

第32回船橋市生活展
安全なくらしをめざして

◀消費者団体など21団体が参加して、研究の成果を発表しました

アトラクションコーナーで行われた「手作り和菓子教室」。船橋菓子工業組合から講師を招き、松、竹、梅をあしらった生菓子を作りました

消費者団体などが、暮らしの様々な問題について研究した成果を発表する船橋市生活展。今年は1月7日から11日まで、西武百貨店船橋店で開催されました。

今回のテーマは「行動しよう！より安全なくらしをめざして」。食や環境問題などのパネル展示のほか、リサイクル工作やお菓子教室などのアトラクションコーナーも設けられ、生活情報盛り沢山の催しとなっていました。

まちなかの文化財
東光寺
（古和釜町）

山門、というほど大げさなものはなくて、右に「瑠璃光山」、左に「東光寺」と普通の民家風に門札が懸かっていて、それが境内への出入口、即ち山門である。傍らに大、中のケヤキが二本、今はすっかり葉を落とし、淡々と青く晴れ上がった初冬の空に梢の手足の先を思いっきり伸ばしている。その白象の胴体の如き大ケヤキの根方、出羽三山参拝記念碑が五基。その他庚申、二十六夜塔などが随うようにいくつも並んでいる。

東光寺境内は結構広い。正面に本堂、右手奥の方に薬師堂が見えて、どうしてなかなか雅趣に富んだ眺望だ。付近の竹林もいい。

本尊は山号寺号から推して東方浄土の浄瑠璃世界の教主、薬師如来と思いきや、阿弥陀如来だという。確かに別に薬師堂が在る。在るには違いないが、その参道には〈念仏衆生摂取不捨〉など刻んだ、天保九年、藤代七郎右衛門寄進の供養塔一対などもあり、こちらが阿弥陀堂でいいような気もする。

そうそう、市指定第一号（昭40）の文化財「自休大徳」も謎めいている。衣紋に金をとどめる僧形の小石仏で、江戸の大侠客、深見十左右衛門（法名・自休）の子分が諸国巡礼の後、当寺に納めたと伝える。

（文・大木　勲）

薬師堂の前に納められている「石造自休大徳坐像」

東光寺本堂

第5回船橋市・上海市国際親善囲碁大会
碁盤をはさんで市民交流

張りつめた空気の中、たくさんのギャラリーに囲まれて、三村智保プロ7段と方捷プロ7段の対局が行われました

囲碁を通して中国・上海市との友好親善を図ろうと、平成2年から行われているこの大会。今回は、12月20日に勤労市民センターで開催されました。プロ2人、アマチュア6人が対戦した対抗戦は、親善試合とはいえ真剣勝負。たくさんの囲碁ファンが観戦する中、碁石を置く音だけが響いていました。成績は、船橋市の7勝1敗で、通算成績を3勝2敗にしました。

参加者の皆さんに大好評だった、プロ棋士による指導碁

対抗戦の大盤解説に、チビッ子ファンの姿も！

第3回障害者の日記念映画祭＆作品展
共に生活できる地域づくりを

「この絵は、ぼくが描いたんです」。自分の作品の前で、見学者にうれしそうに話す障害者の皆さん。

12月6日・7日に障害者施設の皆さんが作った絵画、陶芸などの作品が中央公民館集会室に展示されました。

これは、だれもが、共に生活できる地域づくりを目指そうと定められた、「障害者の日」（12月9日）にちなんで行われたものです。

また、7日には、講堂で障害者を主人公とする3本の映画も上映され、訪れた皆さんは熱心に鑑賞していました。

作品展では、絵画、書、木工、手芸などの作品約700点が展示され、多くの見学者が熱心に鑑賞していました

オペラアリア・アンサンブルの競演
歌劇の名場面を熱唱

オペラの魅力を味わってもらおうと、12月14日、薬園台高校の文化ホールで、「オペラアリア・アンサンブルの競演」が行われました。

これは、中央公民館で活動している、船橋オペラ協会が主催したものです。第1部をアリア（独唱）、第2部を二重唱、三重唱のアンサンブルで構成し、『フィガロの結婚』など、オペラの名場面を披露。会場に、美しい歌声が響いていました。

モーツァルト作曲『フィガロの結婚』の一場面の三重唱

満員の客席から、大きな拍手が送られました

船橋大神宮で灯明台祭
新成人の門出を祝う

つきたてのおもちが入ったお雑煮や、あたたかい甘酒のサービスは、毎年人気を集めています

3人の新成人がスイッチを押し、灯明台に明かりが灯りました

成人式を迎える皆さんの門出を祝って、氏子青年会が1月14日の夜に開催している灯明台祭。今年も3人の新成人を迎えて行われました。

灯明台の点灯式と鏡開きが終わると、お雑煮や甘酒がふるまわれ、境内に詰めかけた皆さんが長い行列を作っていました。また、神楽殿でお祝いのもちまきも行われるなど、境内は大いににぎわっていました。

市民ひとことインタビュー

テーマ　冬に食べておいしいものは？

冬はなべものです。かきを入れるのがおいしいですね
江島 紀代さん（東中山）
裕紀くん（4歳）

ほうれん草です。健康にもいいので、ゆでたりいためたりして食べています
千田 博己さん（本町）
林　梨乃ちゃん（1歳2か月）

キウイとイチゴです。冬の我が家には欠かせません
石川 延人さん（東船橋）
由佳ちゃん（4歳）
弘祐くん（2歳）

うどんとラーメンとチャーハン！
沓沢 健一くん（5歳）
石川　豊くん（6歳）
愛美ちゃん（4歳）

なべものですね。うどんすきが好きで、子どもと一緒に食べています
岡 かおるさん（北本町）
昴洋くん（1歳5か月）

市民スケートリンク
寒さを忘れて元気に滑ろう

メーンリンクと、初心者用のサブリンクがあります

夏の間、多くの皆さんにご利用いただいた運動公園の市民プールが、今年もスケートリンクに大変身しました。チビッ子から大人まで、たくさんのスケートファンで大にぎわい。寒さに負けず、元気いっぱいに滑っています。

開催期間	3月1日(日)まで 期間中無休
開催時間	午前10時～午後6時
入場料	大　人　900円
	中・高校生　800円
	小学生以下　700円
貸し靴	600円

問船橋市スケート協会
☎38-4360

街まちかど角ホットニュース

皆さんからの情報をお待ちしています。

◆広報課
☎36－2015

PTA合唱交歓会
息の合ったハーモニー

各学校のコーラスを発表する前に、全員で『PTAの歌』を合唱

市内小・中学校PTAのコーラスグループが一堂に集まる「船橋市PTA合唱交歓会」が、12月13日、二和公民館で行われました。

24の小・中学校が参加したこの合唱祭。はじめに全員で『PTAの歌』を合唱し、続いて、各学校のコーラスグループが、日ごろの練習の成果を披露しました。皆さんの息の合った美しい歌声に、会場からは大きな拍手が送られていました。

手話付きで美しいコーラスを披露した、高根東小学校父母と先生の会のコーラスグループ「ピュアリー」の皆さん

ふなばしの民話
八幡神社（桜島）のいわれ

文・村上昭三

八幡神社（前貝塚町）

むかし、前貝塚村の東端に聳える一本の松の巨木の周りに、何戸かが家を建てました。集落の名は松島と呼ぶことにしました。

何年か経ったある日、松島の頭は、この土地の皆が集まった席上で

「のうし、皆。暮らしの目途もついたで、親許の前貝塚とは別に、おら達の鎮守様をお建てしようと思うが、どうかのう！」

と言って諮りました。

皆は、この話を以前から待っていたかのように

「それはよいことで。すぐにお建てしましょう」

と、全員が賛成しました。

善は急げと次の日、頭は皆と連れだって、前貝塚の名主様の家に行き、

「名主様、おら達の土地に鎮守様をお建てしたいで。ついては、親許の神明様をご分霊して戴きたいで。どうかお願えしますだ」

と、熱心に頼みました。

これを聞いた名主様は、村内の松島の頼みとあって、早速に村の組頭や百姓代とも相談しました。その結果、神明社にお祀りしている三十三のご神体の中から、神明様を除く三つのご神体をお移しし、お祀りしてもらうことで話が決まりました。

そこで、大安吉日の日に、双方の人達が神明社に集まりました。全員でご祈願をした後で、松島の頭が奥の薄暗い所にある神棚から三つのご神体を押し戴いて来て、皆の前に設けた台の上に安置しました。

松島の立合いの人達は頭と一緒にご神体を見ました。

そして、大声を上げ

「八幡大明神のご神体がある。それから、二つのご神体もご縁の深い神様だ。これは有難いことだ」

と言って、大喜びをしました。これを隣で見ていた前貝塚の立合いの人達は、一瞬残念そうでしたが、すぐに納得し、一緒になって喜び祝ってくれました。

現在も松島の鎮守様として崇敬を集める八幡神社は、このようにして親許の前貝塚の神明社からご神体をお移ししてご創建したお社だということです。

あい・らぶ・ふなばし

将来は、デザイン関係の仕事がしたいですね

和田　アドラシオンさん（坪井町）

「来日した時に、初めて雪を見たんですよ。すごくきれいだったことが印象に残っています。ただ、寒さには困りましたけど」と、にこやかに話すアドラシオンさんは、フィリピンのご出身。6年前に船橋にやってきました。

現在は、日本人のご主人と義理の兄、ご主人の祖母との4人暮らし。ご主人とは、フィリピンにいる友達の紹介で知り合ったそうです。「一年間、電話や文通で二人の仲を深めていったんですよ」とにっこり。

フィリピンでは、ファッション・スクールに通っていたというアドラシオンさん。趣味はミシンがけで、花をデザインしたカバンやシートカバーなどを作っているそうです。また、カラオケも大好きで、昨年行われた「国際交流のつどい」の外国人カラオケ大会で優勝したほどの美声の持ち主。得意な曲は、石嶺聡子の『花』だそうです。

塚田公民館で開催された「民話フェスティバル」にも参加し、フィリピンの民話を語るなど、活動的なアドラシオンさん。

将来の夢を尋ねると、「デザイン関係の仕事がしたいですね」と、優しいまなざしで語ってくれました。

ズームアップ

踊ることが大好きなんです

フィギュアスケート選手　川口悠子さん（市場）

練習の合間にリンクサイドで笑顔を見せる川口さん

'96年の全日本ジュニア選手権での演技

「物心つく前から習っているモダンダンスは、体の使い方やリズムの取り方がフィギュアスケートに役立っています。ダンスでもスケートでも、音楽に合わせて体で表現できるところが好きなんです」

市立船橋高校1年生の川口さんは、日本スケート連盟のフィギュアスケートのジュニア強化指定選手。一昨年、中学3年生で出場した全日本ジュニア選手権大会のシングルで総合10位、昨年11月の大会では、一段と飛躍して総合3位になった。

「初めてスケートを始めたのは5歳のころです。母が好きだったので、無理やり(?)習わされました。最初は東京・神宮のリンクに通っていたが、小学3年生のとき、今の新松戸のクラブに入会。技術も向上し、いやいや習っていたスケートが好きになってきた。今では水曜日と日曜日を除く毎日、船橋の自宅から練習に通っている。朝の6時から1時間と、学校が終わったあと6時から3時間半を、リンクの上で過ごしている。

「5種類の3回転ジャンプができます。今は、連続3回転ジャンプに挑戦中ですが、もうすぐできそうなんです」。川口さんは少し照れながら、うれしそうに話してくれた。日本では過去、プロスケーターの伊藤みどりさんなど2人しか達成していない超難度の技術。完成すれば、さらに高いステージが待っていることだろう。

4月にスロベニア（旧ユーゴスラビア）で開催されるジュニアの国際大会にも出場が決まっている。「一つひとつの試合でベストを尽くして、お客さんがもう一度見たいと思ってくれるスケーティングを目指しています」と、今年の目標を力強く話した。

「学校の勉強では英語が得意です」。はにかんだその横顔に、高校生らしい純真さとひたむきさが見えた。

まい・ふぁっしょん

小川明子さん（三山）

ニットのセーターに、ジャケットとベロアのパンツ。全体を深みのある緑で統一した小川さん。

「シーズンごとに自分の服の色を決めているんです。今年の冬はグリーン。デザインも、ありふれていない、自分の個性が出るようなものを選んでいます」

夢は、だれも行かないような大自然いっぱいの国を旅行することと、大きな瞳を輝かせていました。

あとがき

4回にわたり特集してきた「写真で見る船橋物語」では、原始・古代から船橋市が誕生するまでの歴史を、写真で紹介してきました。

取材では、様々な歴史や文化遺産に触れることができました。地域の人たちの手で大切に保存されている仏像などの文化財、城跡や土手など当時を物語る遺跡、錦絵や巻物などの貴重な資料の数々…。普段なにげなく歩いている町中にも、意外な歴史が秘められていることに驚かされました。

現在、船橋市は人口54万人を超え、JR船橋駅南口は近代的な姿に生まれ変わろうとしていますが、まちには今もなお、宿場町、漁師町として栄えた面影が残っています。皆さんもちょっと足を延ばして、身近な"ふるさと船橋"の歴史を訪ねてみてはいかがでしょうか。（伊）

ハローBaby

佐藤　花栄（はなえ）ちゃん（習志野）

平成9年2月18日生

パパから一言

「大きくなっても一緒に出掛けようね」

みんなの広場 サークル通信

❶発足年月日　❷活動場所　❸活動日　❹会員数　❺連絡先

ジャズダンスサークルS

「土井忍先生の楽しい指導で、ジャズダンスにハマッてまーす」と皆さん

①昭和63年5月
②宮本公民館、勤労市民センター
③毎週金曜日（14時～16時30分）
④24人
⑤川村清江 ☎49-7274

練習の成果は、宮本公民館の文化祭で披露しています

TMアンサンブル

あなたも一緒に究極のハーモニーを目指しませんか

アカペラで合唱を楽しんでいます

①平成元年1月
②中央公民館
③毎週土曜日または日曜日（13時30分～16時）
④11人
⑤中台洋子 ☎64-6130

和彩の会

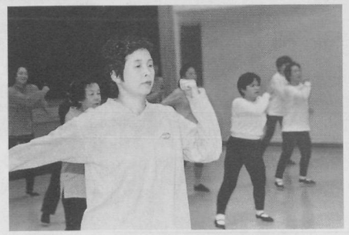
縫い物好きが集まって、和気あいあい楽しく活動しています

①平成5年11月
②塚田公民館
③月3回水曜日（13時～16時）
④11人
⑤佐藤昭子 ☎63-5264

着物や帯など、好きなものを縫っています

楽しく体を動かす会

現在会員募集中です。皆さんも仲間に入りませんか



音楽に合わせて、楽しく体を動かしています

①昭和61年4月
②宮本公民館
③毎週水曜日（10時～11時30分）
④17人
⑤山口陽子 ☎62-1212

全国高等学校駅伝競走大会
2年連続の男女アベック入賞

第5中継所で後藤敦史選手から貝本圭史選手にタスキリレー。貝本選手は区間2位の力走で、タスキをアンカーの伊藤雄史主将につなぎました

2年連続入賞を果たした男子チーム

鉛色の雲が低く垂れ込め、時折冷たい雨が降る冬の都大路を舞台に、全国高等学校駅伝競走大会が行われました。

12月21日午前10時20分、京都市西京極運動公園陸上競技場に号砲が響き、女子がスタート。3区斎木知子選手の区間3位の力走などで、8位入賞を果たしました。また男子は、6区貝本圭史選手の区間2位の快走もあり、全国優勝した11年前の記録に並ぶ2時間6分30秒をマークし、7位でゴールイン。2年連続で男女アベック入賞を果たしました。

最後までデッドヒートを繰り広げ、8位でゴールするアンカーの坂上千佳選手

昨年のタイムを18秒上回り、9年連続入賞を成し遂げた女子チーム